

第 19 回番組審議会 審議議事録

1. 開催日 平成 29 年 12 月 25 日 (月) 18 時～19 時
2. 開催場所 中央会館 (山形県長井市栄町 7-2)
3. 委員出席 委員総数 : 6 名
欠席委員 : 0 名
出席委員 : 番組審議会会長 勝見英一郎
番組審議会副会長 齋藤 喜内
番組審議委員 塚田 弘一
番組審議委員 寺嶋 宏武
番組審議委員 村田 裕子
番組審議委員 谷澤 秀一
放送事業者側出席 黒澤 栄 (代表取締役)
高石 仁光 (ディレクター)

4. 議題

- (1) 代表者挨拶
- (2) 御審議
- (3) その他

5. 議事の概要

- (1) 開会
- (2) 御審議

①番組の適正について

対象番組 : 「おらんだラジオ公開生放送 ながい産業博」

平成 29 年 11 月 11 日 (土) タス 2F メイン会場

午前 10 時～午後 3 時 5 時間 公開生放送

②質疑応答

③その他

④閉会

6. 審議内容

①番組の適正について

(塚田委員)

- ・パーソナリティが長井紬を着て放送している賑やかな会場の様子が目に浮かび、大変よかった。
- ・展示品の説明で、大きさなど具体的な説明があればもっとイメージしやすいと思った。目にするものの形状の表現について、その場になくても理解しやすいように、もう少し気を使ってほしい。
- ・「どんな仲間を求めていますか」「こんなこともやっています」という、主業務以外の質問もあって良かった。

(寺嶋委員)

- ・通常の番組を楽しみにしているリスナーもいると思うので、長時間の生放送は、リスナーにとってどのような利点があるのか疑問。
- ・川のみなと長井と電話中継は、臨場感があり、ラジオらしくてよかった。
- ・会場内で、食べたり体験したりというレポートがあるともっと臨場感が感じられるのでは。
- ・皆川さんは、とても良い質問をしていたなと思った。

(村田委員)

- ・公開生放送も慣れてきたからか、パーソナリティも余裕が感じられ、会話のリズムも良く、とても聴きやすかった。
- ・パーソナリティが長井紬の着物で参加したのは、華やかでよかった。更に長井紬についてもっと取り上げてもらえれば良かったと思う。
- ・参加企業へのインタビューは、その会社で製造している物や、その会社の社長の人柄がわかって面白かった。
- ・会場レイアウトや展示内容について調べたり確認したりしてから、インタビューに臨んでほしい。事前の準備が足りないと感じる場所があった。
- ・天候の都合による、イトインコーナーの変更などもアナウンスをしてほしい。

(谷澤委員)

- ・川のみなと長井との連携は良かったが、音声聴きにくかった。
- ・パーソナリティは、会場の様子を事前にもっと把握しておく必要がある。メインブースだけでなく、会場内の別の場所から中継しても良かったのでは。
- ・インタビュー項目は、事前に統一した形式のものがあ、聴きやすかった。

(齋藤副会長)

- ・企業の社長や担当者の人柄が伝わり、生放送ならではの良さがある。
- ・イベントとラジオ放送の相乗効果があり、良い企画だと思う。事前に下調べをして、長井や各企業のPRに繋げることが出来ればもっと良かった。
- ・インタビューだけでなく、生放送ならではの臨場感（会場レポート等）があればもっと良かった。

(勝見会長)

- ・5時間の生放送の意義について、生放送らしさ、良さをどのように生かしていくか、どういう準備をして臨んだのか、事前の打ち合わせが十分だったのか、生放送の在り方としてあのような形しかないのか、もっと工夫するやり方等がなかったのか等の意見が寄せられた。また、パーソナリティの受け答えや切り替えしの仕方、話の深まりの作り方など不十分なところがあったのではないか。

(高石)

- ・主催者側の準備の遅れもあり、ラジオの放送準備も1週間程度遅れてしまった。パーソナリティについては、新人と公開放送をあまり体験したことのないパーソナリティも含め4名を配置した。不慣れな部分もあったが、今後につながる経験になったと思う。当日は、売店へワイヤレスマイクを持っての取材、巡回バスで移動しながらの3か所からの電話中継、会場でセグウェイの体験中継を予定していたが、様々な理由で実施できなかった。対策やシミュレーションが十分でなかったと反省している。事前の準備不足を痛感したので、次回の課題としたい。
- ・放送時間の長さについては、効果的に凝縮できるよう次年度に検討していきたい。

(勝見会長)

- ・パーソナリティの置賜独特の言葉のイントネーション（語尾が強くなる）が、気になる。「××ですね。」と言っても「××ですね～」と語尾が協調されるので耳に刺さって聴こえる。もう少し語尾を軽くするように努めてほしい。相槌の時も「だよね～～。」と長い。その間に次の言葉を探しているようで、拙さを感じる。
- ・他局のパーソナリティと比べると、言葉の語彙が圧倒的に違う。インタビューをする際には、事前に調べたことを頭の中に入れておかないと、切り返しや掘り下げた質問が出来ない。その辺もパーソナリティのテクニックではないかなと思う。

②質疑応答

(齋藤副会長)

- ・パーソナリティのトレーニングはどうしているのか。

(高石)

- ・3か月に1回、ミーティングを開催し、リスナーからの意見や気づいた点をまとめて勉強会を行っている。イントネーションについては、元アナウンサーの小関さんより指摘してもらっている。

(勝見会長)

- ・訛りが出るのは、それはそれでよいと思うが、聴きにくいという点が問題。訓練次第だと思う。パーソナリティ自身も向上心を持って取り組んでいると思うので、みんなに気持ちよく聴いてもらえるための努力は前向きに取り組むのではないか。そのための研修や訓練は続けてほしい。

(高石)

- ・定例句などは準備しているが、パーソナリティのアナウンスマニュアルは策定しておらず、パーソナリティに任せている部分がある。4年目は、アナウンスについて統一感を持たせるようにしていきたい。

③その他

- ・特になし

7. 審議会の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

- ・特になし

8. 審議会の意見の概要の公表

公表方法：自社ホームページへの掲載

公表内容：本議事録

公表年月日：平成30年1月11日（木）

9. その他の事項

次回の放送番組審議会日程について

- ・平成30年1月は休会とする。
- ・第20回放送番組審議会 平成30年2月19日（月）18時～予定
開場 未定